

＜第2回中宮北小学校保護者説明会（今までいただいていたご意見・質疑について）＞
パワーポイントによる説明内容

(P1)

第2回 中宮北小学校保護者説明会としまして、「今まで皆様からいただいていたご意見・質疑について」説明をさせていただきます。

(P2)

それではまず、「これまでの経過等について」ご説明させていただきます。

(P3)

これまでの経過につきましては、ご覧の経過表のとおりですが、平成28年3月の「枚方市学校規模等適正化審議会」（第4次）からの答申に始まりまして、一番下の段、令和元年12月に高陵小学校法面調査の結果報告で、高陵・中宮北校区合同説明会を実施させていただきました。そして、令和2年3月8日に保護者の皆さまへの説明会を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で延期となり、本日の説明会の開催となったものです。

(P4)

これまでの中宮北小校区様と教育委員会との取り組みにつきまして、図示しております。枚方市教育委員会は、「中宮北小学校 統廃合問題 検討委員会」様を窓口として、新しい学校づくりとそれに向けた説明会の開催方法などについて協議をさせていただいております。今回の保護者説明会につきましても、検討委員会様と相談させていただき、実施させていただいたものです。

(P5)

それでは「今まで中宮北小校区の皆様からいただいていたご意見・質疑」について説明させていただきます。

皆様からは「小規模校のままでよい」とのご意見、「新しい学校の敷地」についてのご意見、「通学路の安全確保」についてのご意見、「跡地活用」についてのご意見と主にこの4つのご意見をいただいております。

(P6)

まず、「小規模校のままでよい」というご意見についてですが、その理由としまして、「少人数であることは、行き届いた学習が保証され、教師もゆとりを持って子どもたちに接することができる、というプラス面がある」「海外では少人数は当たり前と聞く」「現状の小規模校で何も困っていない」「小規模校の良い所をもっと伸ばして欲しい」とのご意見をいただいております。

(P7)

「新しい学校づくり」に取り組んでいく教育委員会の考え方としまして、ご指摘の通り、「きめ細やかな学習を実施できる」という、小規模校にあるメリットは重要であり、今後も

継続させていく必要があると考えています。

枚方市では、独自の、1学級35人の少人数学級編成を、1年生から4年生まで導入しております。学校統合を行ったとしても、引き続き、少人数学級編成を継続しまして、学習面や集団生活における社会性の育成について、きめ細やかな教育を行っていきたいと考えております

一方、小規模校のデメリットは補う必要があると考え、7ページ下の段にデメリットとして考えられる要素を書き出しております。例えば、子ども同士の友人関係が固定化してしまう恐れ、クラス数が少ないことで運動会、学習発表会に工夫が必要になること、教師が授業を行う場合の指導方法については、学年に複数の教師がいる場合には、複数の指導方法から相談してより良い指導方法を採用することができるという環境が生まれますが、クラスが一つとなりますと、そのような相談ができにくく、固定的な指導方法になりやすいこと、また教師数が少ないことで、教師に出張や病気があった場合のサポートがしにくいこと、PTA活動においても、保護者の負担が大きくなりやすいことなどが挙げられます。

これらの小規模校のデメリットを、新しい学校を作ることで改善し、児童の皆さんには教科等の知識の習得に加え、社会性や社会規範をより身に着けやすくなること、また、教員数が確保できることで、教員の指導がより良くなることを期待し、緊急時でも対応しやすい環境を整えてまいりたいと考えています。

(P8)

中宮北小学校と高陵小学校の現状と、将来推計について説明させていただきます。

8ページの上の表ですが、令和2年5月1日現在の、中宮北小学校と高陵小学校の「0歳児から5歳児まで」の幼児数、その右には「学年別の児童数など」を表しています。

1年という表記の隣に(35)と書いておりますのが、1年から4年までは1クラス35人を基準としていることを表しております。5年、6年は1クラス40人学級となっております。

中宮北小学校1年生のところを見ていただきますと、27人の1クラスで、(1)は、支援の児童が1人おられて、この1人は27人の中に含まれています。

高陵小学校の1年生を見ていただきますと、38人の児童がいて、現在2クラスとなっております。(1)とありますので支援の児童が、1人いることを表しています。

この表のいちばん右端を見てもらいますと、中宮北小学校は、合計が207人で8クラス、うち15人、支援の児童がおられて、5クラスとなっております。高陵小学校は合計188人の児童がおられて、8クラスとなっております。これは、どちらも小規模校という位置づけとなるものです。

その下の段を見ていただきまして、令和3年から令和8年までの、児童数と学級数の将来推計を表したものです。令和3年から8年までは教育委員会で把握している将来推計で、その隣、令和10年、15年と5年おきに令和30年までであるのは、枚方市の人口推計調査によるものです。

中宮北小学校のところを見ていただきますと、令和3年は7クラスで、令和8年では10クラス、令和30年では6クラスの推計となっております。

高陵小では令和3年では9クラス、とんで令和8年では7クラス、一番右端の令和30年では6クラスと推測され、推計の上ですが、令和30年まで、両校とも小規模校ということになります。

(P9)

ここでは中宮北小学校と高陵小学校が令和4年に1つになったと仮定し、学級数と児童数を計算しております。

1つになった場合、1年生は72人の3クラスで、1クラスあたりの平均は24人という推計となります。表のいちばん右端の合計のところ、合計は391人で14クラスとなります。両校を1つにした場合でも、枚方基準の小人数編成で、きめ細やかな指導を行いたいと考えております。

その下の表は、「両校を一つにした場合」の児童数と学級数の将来推移を表しております。令和5年には児童415人で15クラス、令和10年では、児童数486人で16クラスと推計しております。小学校の場合、12クラスから24クラスが適正規模という基準ですので、これは20年後の令和30年まで適正規模となる予測となるものです。この学校に通いたいと思っていただけるような、枚方市のモデル校となるような学校づくりを目指してまいります。

(P10)

「新しい学校の敷地について」のご意見として、「新しい学校の敷地候補は、なぜ高陵小学校の敷地なのか」「高陵小学校は、崖のすぐそばに建っており、危険だと感じる」というご意見をいただいております。

(P11)

青色の枠内が高陵小学校区、緑色の枠内が中宮北小学校区、黒色の太線で囲った枠内が新たな小学校区になります。

高陵小学校に新設校を設けた場合、学校が2校区の中心に近いということがあります。

また、高陵小学校の正門前・裏門側は車の交通量が少なく、通学など安全面から学校敷地として適していると考えました。そのうえで、中宮北小学校前は、跡地活用場所として多目的に使いやすいと考えたものです。

両施設を活用して、魅力ある学校と、地域の利便性の向上、この校区の活性化につなげていきたいと考えております。

(P12)

高陵小学校正門に至るUR道路の写真を掲載しております。

(P13)

高陵小学校裏門前の、車両通行止めとなっている道路の写真です。

(P14)

高陵小学校裏門の写真を掲載しています。災害時に対応するため、大型車両が侵入できるように裏門の拡幅工事を実施したいと考えています。

(P15)

中宮北小学校正門前の幅員 6 m の道路です。

(P16)

中宮北小学校裏門の写真です。新設校となった場合は、中宮北小学校内を通り、この裏門を抜けて通学できるよう、また地域住民の利便性が向上しますよう、通路を確保したいと考えています。

(P17)

コスト面での比較検討を記載しております。

新しく建て替えをする場合の整備費用については、中宮北小学校、高陵小学校ともに約 34 億円の試算となっております。次に、建て替えでの、国からの補助金については、昭和 55 年に設立された比較的新しい中宮北小学校については該当しませんが、高陵小学校は、建築が昭和 43 年設立と古く、建物の耐力度検査の結果、約 4 億円が補助される見込みです。

一方、長寿命化改修をする場合の費用につきましては、中宮北小学校が約 27 億円、これは教室数が少ないため、増築する費用が含まれています。高陵小学校が約 25 億円となっております。長寿命化改修についての国の補助金は、中宮北小学校、高陵小学校ともに約 2 億円となります。

これらの金額を検討した結果、コストとしましては、高陵小学校を建て替えした場合は、国の補助金を入れて約 30 億円の費用がかかり、一方、中宮北小学校の長寿命化改修をした場合、国の補助金を入れて約 25 億円となりますが、長寿命化したとしても、その後の施設の寿命が、建て替えより短くなってしまいます。これらを踏まえ、また、これまでの両校区のご意見も考慮して、より長寿命ということと、教育環境の向上と地域の魅力向上が図ることのできる、「建て替え」による新しい学校づくりを行う方向で考えています。

(P18)

高陵小学校法面の安全性についてのご意見をいただいております。これにつきまして平成 31 年に法面調査を行った結果、通常時及び大地震時、かつ長期にわたって「安定」という評価を得ておりますが、今後も引き続き、点検やメンテナンス等、適切な維持管理に努めたいと考えています。また、想定外の災害、事象が発生しても避難所としての機能が維持できるように、新校舎は法面から離れた場所である南側（配置図では右側になります）への配置を検討いたします。

(P19)

「中宮北小学校の児童は、交通量の多い道路を横断して登校することになるが通学路の安全性の確保はどうなるのか」、というご意見です。

(P20)

「通学路の安全確保」については、高陵小学校に新しい学校を設立した場合、渚中宮線を横切る児童が出てまいりますので、安全対策を徹底したいと考えています。地域の見守り隊に協力をお願いすることや、道路の補修等が必要な個所には、速やかに対応をしていきたいと考えます。

通学路につきましては学校、保護者の皆様と協議させていただき、より安全性の高い通学路を実現させたいと考えております。

(P21)

20 ページでの「信号①」の場所で、高陵小学校正門に向かうUR道路入口付近の写真です。ここには写真のように「通学路注意」の注意喚起ペイントを検討します。

(P22)

22 ページでの「信号②」の関西外大御殿山キャンパス前の箇所です。

(P23)

23 ページは同じく関西外大前歩道の写真で、歩道に、大学生に注意を呼び掛けるペイントをすることで、児童が通行するときの安全を図りたいと考えております。

(P24)

いただいた意見のうち「跡地利用について」のご意見です。「跡地に民間施設が建つのではないか」「学校は避難場所として利用されている。これからどこに避難したらよいか」というご意見です。

(P25)

跡地活用につきましては、具体的な案は今後の課題ですが、公的な施設の移設等を検討してまいります。

バリアフリー化など、跡地整備のための財源確保や、一部、不要地が出た場合については売却の可能性はあるかと考えています。

また、先ほどお伝えしましたが、25 ページの左の図の中で、赤い点線で囲ってあるところに「通学路」を確保し、児童が通学しやすいよう、また地域住民の皆様の利便性が向上するよう検討します。そして、地域にとって重要な、避難所機能や地域活動場所を確保するよう検討したいと考えています。

以上、皆様からいただきました、ご意見・ご質問に対するお答えとさせていただきます。

教育委員会いたしましては、新しい学校の設置場所は高陵小学校が適している考えまして、中宮北小学校の跡地活用とともに、児童の皆さんにはよりよい学習環境を提供させていただき、そして、より利便性の高い、魅力ある街づくりを目指していきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。